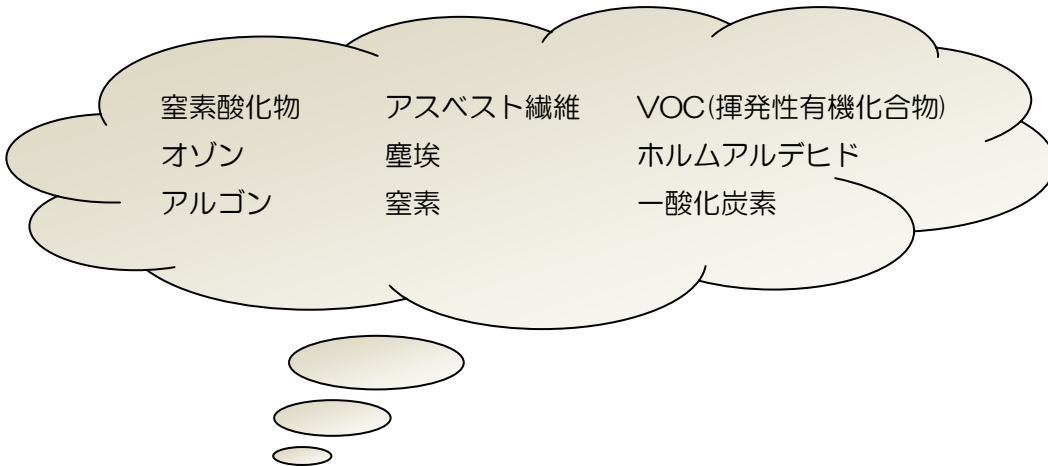


■正誤問題 (要点確認 16 問)

空気汚染に関する問題です。○×で回答して下さい。×の場合は、なぜ間違っているのかも考えてみましょう。

1. 乾燥大気中の二酸化炭素 (CO₂) の体積比は、およそ 0.03% (300ppm) である。
2. 不完全燃焼で発生する一酸化炭素 (CO) は、無色無臭の有毒ガスである。
3. 一酸化炭素 (CO) 濃度の許容量は、0.05% (500ppm) である。
4. 一般に室内における二酸化炭素 (CO₂) 濃度の許容量は、0.1% (1000ppm) である。
5. 空気汚染の原因となるもので、人体を発生源とするものとしては、二酸化炭素 (CO₂)、体臭などがある。
6. 不完全燃焼や喫煙などにより発生する一酸化炭素 (CO) は、有害ガスである。
7. カビは、菌の一種で、飛散した孢子が疾病の原因になることもある。
8. 便所や給湯室では、室内圧を周囲より低く保つように排気機を用いた換気とする。
9. 汚染質が発生している室における必要換気量は、その室の汚染質の発生量、許容濃度及び外気中の汚染質の濃度によって決まる。
10. ホルムアルデヒドなどによる室内空気汚染を防ぐためには、室の気密性を高くし、換気回数を減らす必要がある。
11. 温度以外の条件が同じであれば、空気を加熱しても、相対湿度は下がらない。
12. 人体を発生源とする空気汚染の原因の一つに、体臭がある。
13. 空気を露点温度以下に冷却すると、空気中の水蒸気の一部は、凝縮し水滴となる。
14. 温度以外の条件が同じであれば、空気を加熱しても、その空気の露点温度は変化しない。
15. 内装材からホルムアルデヒドが発生すると、室内空気汚染の原因となる。

16. この中で、空気汚染に関係が少ないものは？



■正誤問題 解答編

1. 乾燥大気中の二酸化炭素 (CO₂) の体積比は、およそ 0.03%(300ppm)である。
1. ○
2. 不完全燃焼で発生する一酸化炭素 (CO) は、無色無臭の有毒ガスである。
2. ○
3. 一酸化炭素 (CO) 濃度の許容量は、0.05%(500ppm)である。
3. × **一酸化炭素(CO)の濃度の許容量は 0.001% (10ppm) です。**
4. 一般に室内における二酸化炭素 (CO₂) 濃度の許容量は、0.1%(1000ppm)である。
4. ○ **これを越えると人体に影響が出始めます。**
5. 空気汚染の原因となるもので、人体を発生源とするものとしては、二酸化炭素 (CO₂)、体臭などがある。
5. ○
6. 不完全燃焼や喫煙などにより発生する一酸化炭素(CO)は、有害ガスである。
6. ○
7. カビは、菌の一種で、飛散した胞子が疾病の原因になることもある。
7. ○
8. 便所や給湯室では、室内圧を周囲より低く保つように排気機を用いた換気とする。
8. ○
9. 汚染質が発生している室における必要換気量は、その室の汚染質の発生量、許容濃度及び外気中の汚染質の濃度によって決まる。
9. ○
10. ホルムアルデヒドなどによる室内空気汚染を防ぐためには、室の気密性を高くし、換気回数を減らす必要がある。
10. × **反対ですね、換気回数を増して、室内空気を清浄にする必要があります。**
11. 温度以外の条件が同じであれば、空気を加熱しても、相対湿度は下がらない。
11. × **温度が上昇すると、空気中に含むことのできる水蒸気量は多くなります。したがって、空気中の水蒸気量が同じであれば、空気を加熱すると、相対湿度は下がる事になります。**

12. 人体を発生源とする空気汚染の原因の一つに、体臭がある。

12. ○

13. 空気を露点温度以下に冷却すると、空気中の水蒸気の一部は、凝縮し水滴となる。

13. ○

14. 温度以外の条件が同じであれば、空気を加熱しても、その空気の露点温度は変化しない。

14. ○

15. 内装材からホルムアルデヒドが発生すると、室内空気汚染の原因となる。

15. ○

16. この中で、空気汚染に関係が少ないものは？

窒素酸化物	アスベスト繊維	VOC(揮発性有機化合物)
オゾン	塵埃	ホルムアルデヒド
アルゴン	窒素	一酸化炭素

16. アルゴンと窒素でした。

